

少年センターだより

発行



日野町少年センター

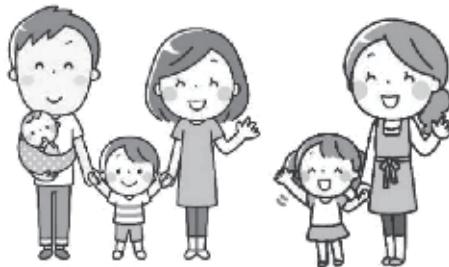
日野町河原1-1

TEL0748-53-1325

<https://syonen.jp>

先日、散歩中の家族連れと出会いました。

元気な小学生が2人と、お父さん、お母さんが3人ほど、男性の腕には赤ちゃんがいました。私とすれ違う時、男性の方が「こんにちは！」女性の方も「こんにちは！」はしゃいでいた小学生たちも「こんにちは！」私も「こんにちは！」その場には、以前から顔見知りのような雰囲気が漂いました。さらに、あいさつをする子どもたちの顔には、満面の笑み。家族という近くにいる大人が進んであいさつをし、人と人がつながりあった瞬間を味わい、うれしかったのでしょう。



地域の中での大人の姿勢

大人の姿勢や行動は変化を生み出します

少年センターが呼びかけたあいさつ運動も軌道に乗ってきました。今まで、様々な団体の方にご賛同、ご協力いただき、中学校のみならず、小学校でも朝から、元気な声が響いています。この大人の姿を子どもたちは目の当たりにしています。最近では、中学生、小学生から率先して元気なあいさつをする姿は、町民の皆様の元気の源となっているのではないでしょうか。親の背中を見て、子は育つと言いますが、地域の大人の背中を見て、地域の子どもが育つのは、間違いありません。大人からの関係を深める行動で、きずなが生まれ、町に笑顔があふれてきました。あいさつだけではなく、地域行事や普段の生活での温かい関係づくりは、住みよい日野町の、大きな力となるはずです。

具体的な活動をはじめましょう

特別な活動を始めるわけではなく、今まで大切にしてきた活動をこれからも続けていくことが必要です。子どもたちの大事な力を成長させていくために、家庭では、親はもちろんのこと、祖父母、兄弟姉妹などが、家族のだんらんや共同体験を充実させましょう。社会にゆとりがなくなってきていますが、家族のためにゆとりを確保し、家族と共に過ごす時間を増やしましょう。また地域では、普段の生活の中で大人や様々な年齢の人と交流し、生活体験、社会体験、自然体験を積ませる機会を持ちましょう。

何はともあれ、地域に住む誰もが、自分の住む地域に誇りと愛着を持ち、その中で地域の大人たちが手を携えていきたいものです。



キーワードは「こころの置き場所」

日野町青少年育成町民会議 会長 安 藤 宜 保

6月より会長を拝命致しました。町民皆様方のご理解とご支援をいただきながら、全力で職責を全うする所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

私の教員時代を思い出しています。様々な子達が校長室を訪れてきました。他愛もない会話で去っていく子はいいのですが、壊^{せき}を切ったように親、友達の事を語り出す子、その大半の子達は友達関係、家族関係に悩み、疲れ、そして、今この瞬間に「聞いて欲しい！」と願っていました。

毎日のように授業中に抜け出て来る子達は、なかなか学級集団に溶け込む勇気がなくて、同じ仲間で群れ慰め合って1時間程騒いで移動する。そんな彼（女）らの仲間の中にもまた人間関係があって、無理に背伸びしている子、合わせている子、何とか繋がっていたい子など様々。時折、別行動して一人校長室を訪ね、辛い思いを話し出すと、ギリギリの心で生活し、心の置き場所を探している姿がそこにあり、気持ちが伝わってきました。

「対応が甘いのでは？」という声には、「現象面じゃなく心の脚下を見れば、甘さではなくこれが本当の受容と共感的理解。」と傾聴のススメを提唱し続けてきました。

青少年健全育成の課題は、その時代時代の課題を映し出しています。ただ、時代は変化しようと、**子達の変わらぬ願いは、『愛されている実感』**だと思うのです。

親は自分を本当に大切に思ってくれているのか？先生は自分の言葉を信じて本気で相対してくれるのか？様々な場面でその思いを投げかけ、サインを出し試してきます。そのときの大人の対応、受け止め方ひとつで、これが「絆」ともなり「崩壊の道」ともなる。

単純な話して片付けられませんが、少なくとも家庭、学校、地域などの場面でもいいので、こころの置き場所、思いを出せる環境があれば子達はずいぶん救われます。この「こころの置き場所」が大事なキーワードとして繋がり、広がれば～と願っています。



子育て小窓

金子みすゞの『みんなちがってみんないい』その通り！誰もがそう思い、願っていますよね。“ちがっていい”とは、現代の言葉では『多様性』と表現されるのでしょうか。これらは社会全体で受容されるべきものですが、その前提には「自分のことがいい」と思え、「自分のことが好き」と思っているかが問われます。自己肯定感といわれる感情・感覚です。

今、私たちの周りにいるどれくらいの子が、“自分らしく、自分を大切に” 思い出来ているでしょうか。

子どもたちが、“自分らしく、自分を大切に” 思えるようになる為には、家族や周囲の大人の『伴走』が必要です。見守り、寄り添い、共感し…人への信頼感から自己肯定感を育んでいく為の『伴走者』。その一人でありたいものです。

(日野町子育て・教育相談センター N)

ともに歩む力強い味方

Vol.1

日野町ファミリーサポートセンター（ファミサポ）

仕事と育児を両立させ、地域での子育て支援力をサポートする、全国で取り組まれている事業です。子育てを応援してほしい人（依頼会員）と子育てを応援したい人（協力会員）をつなげる働きをしています。具体的な活動内容は、保育施設への送り迎え、保育施設や学校の時間外の放課後に子どもを預かる、保護者の外出時の際に子どもを預かる、保護者の病気や冠婚葬祭などの緊急時に子どもを預かるなどがあります。また、子育てに関する相談や、意見交換、悩みごとをともに考えるなどの活動も行っています。

お仕事のため、産前産後のため、上の子の学校行事のため、などなどの理由で子育てに力を貸してほしい方は、依頼会員として登録してください。また、「子育てが一段落ついた」「子どもが好き」「地域で何かできることはないか?」などとお考えの方は、協力会員として登録してください。

困ったときにはお互いさま。
ファミサポに相談。会員になつて地域で助け合いましょう。



【問い合わせ先】

080-9752-1515

日野町村井1349番地

つぶやき

車を運転している時でした。前を走っていた車の窓から「ポイ」と、タバコの吸い殻らしきものが捨てられました。たまたま信号で車が止まつたので注意をすると、その方は睨み返し、「チッ」と舌打ちをして発進されました。

乳児・幼児の時は、ポイポイ物を投げます。しかしその行動は両親を始めとする周りの大人たちの声掛けによって徐々に修正されていきます。子どもたちは小学生になっても、中学生、高校生になっても声を掛けられることで「見られている、見守られている」と感じてくれると思います。ここ2年間余り続くコロナ感染の影響で人と人とが対面で行うことが、制限され声を掛けることも躊躇される日々が続いているですが、これから未来を担ってくれる子どもたちに、今私自身が出来ることをすれば良いのかなと、思っています。

少年補導委員 富田 忠夫

少年補導功労者として表彰

10月8日に行われた「なくそう犯罪」滋賀安全なまちづくり県民大会の席上で、富田忠夫さんが少年補導功労者として滋賀県警察本部長・滋賀県少年補導員会連絡協議会長連名表彰を受賞されました。

富田さんは、平成26年から少年補導委員を務められ、街頭パトロールやあいさつ運動等積極的に活動をしてこられました。

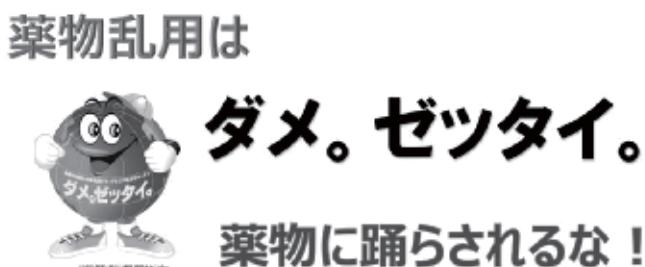


薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」氏郷まつりで啓発

10月22日（土）に行われた、氏郷まつり“楽市・楽座”2022で少年補導委員会が薬物乱用防止啓発を行いました。

少年補導委員が啓発パネルを使いながら薬物乱用の怖さを説明し、薬物乱用防止クイズに挑戦してもらいました。その後、薬物撃退ゲームに参加してもらい、楽しみながら薬物乱用防止について学んでもらいました。

薬物乱用は、テレビドラマの中の話ではありません。誰でも手軽に薬物が手に入る時代になりました。県内でも関係する事件が起こっています。他人事のように考えず、みんなで気をつけていきましょう。



滋賀県子ども・若者育成支援推進強調月間で啓発

滋賀県では、11月1日～30日まで間を「滋賀県子ども・若者育成支援推進強調月間」と定め、子ども・若者の社会的自立支援の促進や有害環境浄化等の啓発活動が行われました。

日野町少年センターでは、11月4日（金）フレンドマート日野店において、日野町少年補導委員会、東近江警察署、日野町青少年育成町民会議が協力し、啓発グッズを配りながら啓発活動を行いました。声をかけながらの啓発は3年ぶりで、買い物帰りのお客さんに子ども・若者の健全育成を呼びかけることができました。



ホームページが新しくなりました！

ホームページを大幅にリニューアルし、最新の情報を届けするとともに、悩みごとを抱えている青少年や保護者の皆さんから少年センターに相談してもらえるような内容にしています。

少年補導委員の皆さんの活動紹介なども行っています。日野町少年センターと検索いたらしく、右のQRコードを読み取って是非アクセスしてください。



ひとりで悩まないで まずは相談を！

少年センターでは、少年に関する悩みや心配ごとの相談を行っています。お気軽にお越しください。秘密は厳守します。

○来所相談 ○電話相談 ○メール相談
○来所・電話時間：月～金 9:00～16:30
日野町少年センター

（日野町勤労福祉会館 2階）
電話 0748-53-1325
E-mail hino@syonen.jp